

一般社団法人日本キャップ野球協会
令和4年度定時社員総会資料

開催年月日 2023年6月25日（日）

10：00～11：00

開催場所 オンラインにて開催

一般社団法人日本キャップ野球協会

令和4年度定時社員総会

資料目次

【議案】

1. 令和4年度の決算報告
 - (1) 令和4年度決算報告
2. 定款一部変更
 - (1) 会員、理事の定義変更
 - (2) 現行定款と変更案の比較
3. 役員選任
 - (1) 役員選任候補者

【報告】

1. 令和4年度の事業報告
 - (1) 令和4年度事業報告
 - (2) 令和4年度監査報告

第 1 号議案

令和 4 年度の決算報告

- (1) 令和 4 年度決算報告

令和4年度の決算報告

(1) 令和4年度決算報告

※別資料「令和4年度 会計報告」参考

第2号議案

定款一部変更

- (1) 会員、理事の定義変更
- (2) 現行定款と変更案の比較

定款一部変更

(1) 会員、理事の定義変更

総会の出席義務が生じる「社員」から一般会員を外し、一般会員及び総会を開催する運営者の負担を減らすため。なお、社員から外すことで総会での議決権が運営者中心に偏ってしまうが、令和5年度に制定を予定しているチーム登録（名称は仮のものとする）によって、来年度以降、チーム単位での総会の議決権の保持を要請するものとする。また、常務理事や業務執行理事の範囲を改め、理事の退任などにおける本人の自由度を向上させる。

【現行定款のうち対象とする条項】

3章5条3項

4章11条1項

5章19条3項

5章19条5項

5章20条3項

5章20条5項

5章21条3項

5章21条5項

6章28条1項3号

6章32条1項

(2) 現行定款と変更案の比較

【現行】

3章5条3項

この法人の一般会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人法に関する法律(以下「法人法」という。)上の社員とする。

4章11条1項

社員総会は、一般会員をもって構成される。

5章19条3項

理事のうち1名を会長とし、副会長は2名以内、常務理事を10名以内置くことができる。

5章19条5項(削除)

常務理事を法人法上の業務執行理事とする。

5章20条3項

代表理事及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

5章20条5項(追加)

5章21条3項

常務理事は、定められた担当業務を執行するとともに、理事会を通じて代表理事を補佐する。

5章21条5項

代表理事及び常務理事は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

6章28条1項3号

会長、副会長、常務理事の選定及び解職

6章32条1項

理事、監事が理事及び監事の全員に対して理事会に報告すべき事項を通知したときは、当該事項を理事会へ報告することを要しない。

【変更案】

3章5条3項

この法人の特別会員及び協力会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人法に関する法律（以下「法人法」という。）上の社員とする。

4章11条1項

社員総会は、特別会員及び協力会員をもって構成される。

5章19条3項

理事のうち1名を会長とし、副会長は2名以上置くことができる。

5章19条5項（削除）

5章20条3項

代表理事及び業務執行理事は、理事会の決議によって選定する。

5章20条5項（追加）

代表理事及び業務執行理事は、理事との兼任を妨げない。

5章21条3項

業務執行理事は定められた担当業務を執行するとともに、代表理事を補佐する。

5章21条5項

代表理事及び業務執行理事は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

6勝28条1項3号

会長、副会長、業務執行理事の選定及び解職

6章32条1号

代表理事、業務執行理事、監事が理事及び監事の全員に対して理事会に報告すべき事項を通知したときは、当該事項を理事会へ報告することを要しない。

第 3 号議案

役員選任

- (1) 役員選任候補者

役員選任

(1) 役員選任候補者

理事 10 名のうち、5 名が辞任することとなったので、下記の候補者を理事会の推薦により新たに選任することとしたい。

記

理事：古川譲一

理事：田中恭太郎

理事：川端公大

理事：花田裕

理事：志茂岳樹

理事：中村陽晴

(参考)

留任理事：佐藤宏紀（代表理事）

横田一樹（代表理事）

弓矢哲平（代表理事）

松浦緋咲

矢口大樹

留任監事：井上徹

以上

報告

令和4年度の事業報告

- (1) 令和4年度事業報告
- (2) 令和4年度監査報告

一般社団法人日本キャップ野球協会

令和4年度事業報告

(令和4年6月1日から令和5年3月31日まで)

1. 登記

弊協会は令和4年6月1日に、佐藤宏紀、弓矢哲平を設立時社員として登記した。前身組織である関東キャップ野球協会（以下 Cba:E）から、さらなる競技の発展を目的として同3月1日に法人化を進め始めた。3箇月を要しながら、事業範囲を関東から日本全国へと広げることとし、無事に登記を受理された。

2. 理事会

本年度は3回の通常理事会が開催された。開催日はそれぞれ第1回令和4年8月29日、第2回令和4年11月24日、第3回令和5年2月27日である。すべて Web 会議にて開催された。

3. 委員会活動

(1) 各委員会の開催

各業務別に6つの委員会を設置し、それぞれが定例会を開催した。なお、会計委員会は総務委員会の設置に伴い統合された。

(2) 企画委員会

令和4年度は合計で7つの大会、練習会を主催し、キャップ野球の競技者に数多くの真剣勝負の場を提供するとともに、競技者の方々による多様な交流を生み出した。

令和4年6月11日、12日に令和4年新人戦を開催し、計7チームが参加。Cba:Eから初めての新人にフォーカスした大会であり、合宿形式を採用した。参加者からは高い評価を得た。

令和4年8月13日、14日に令和4年蓋ノ陣を開催し、計20チームが参加。多くの参加者を集客した。

令和4年9月13日14日に京都にて練習会を開催した。

令和4年10月23日に令和4年関東シャッフル大会を開催した。即興チームによ

る大会形式において、キャプテンの公募、ドラフト会議の開催も行った。

令和4年12月26日、27日に開催された三皿大会の後援をした。

令和5年1月5日に関東、7日に関西新年大会を開催した。三皿大会に続き、年末年始にもかかわらず2地区での開催を実現した。

令和5年3月4日、15日、16日の延べ3日間にわたり、令和5年東西統一蓋祭を開催した。予選も併せて過去最大規模の大会となり、競技の順調な発展を示す結果となった。

(3) リーグ運営委員会

関東と関西合わせて3つのリーグ戦をポストシーズン含め主催した。競技者の多くを大学生が占めるスポーツにおいて、最後まで開催することが難しいリーグ形式のイベントを実現させ、長期にわたる計画的な公式戦の場を提供した。企画部による全国大会に向けて、リーグという公式戦はさまざまな目的をもって競技者に出場してもらうこととなり、多くの経験と継続するモチベーションにつながった。

関東春リーグでは15チームが参加し、2リーグ制が採用された。チームごとに育成、優勝など目標とするものが違うなか、合同チームも編成するなど、バランスを考慮して全体の満足度を高めることに尽力した。

関東秋リーグでも15チームが参加。春の新生生が多かった時と比べチームコンセプトも変化し、今後2シーズンを送るうえで基礎となる期間を終えることになった。

関西は秋リーグから弊協会の主催となり、過去の関西リーグの中でも最多となる8チームが参加した。また、多くの試合で体育館を確保し、本来の競技の姿である屋内戦を提供した。

(4) 普及促進委員会

主に動画による広報活動を行い、特にTikTokによるショート動画、ライブ配信では多くの視聴者、再生回数、フォロワーを獲得した。その他のSNSはTwitter、Instagram、YouTubeにおいて継続的な運用をした。

また、ホームページを通じて大会要項や公式発表などを行った。

(5) 競技規則委員会

公式戦のルールを適宜改訂し、競技の確立を促進した。ストライクゾーンや試合会場のライン際の判定など、競技者からの疑問や不平に関する意見に対応し、認識の共通化を図った。

また、今年度はコロナ禍が終息しつつある中で、マスクの着用について活動レベルに応じた変更を行った。

(6) デジタル委員会

情報局及びスコアブックを主な事業としており、長期的な目線でアプリ開発なども視野に入れながら活動している。

令和4年8月からチームや選手の登録、情報局/スコアブックの新規機能の要望、協会本部と間違えたメールの対応を行った。

情報局/スコアブックの協会との提携により各種リーグ、大会データの提供及び連携が行われた。大会カテゴリデータの作成、試合入力可能なチームのリーグごとの制限、自責点最終チェック、各種お問い合わせ、大会カテゴリデータの作成、データ転送が具体的な業務となった。

情報局の機能開発としては以下のことを行った。

令和4年6月にスコアブックデータの連携機能を実装。

同8月大会結果にて総当たり戦開始前にチーム分けを表示するよう修正、YouTube新着動画機能実装、チーム成績に順位などを実装、パワーの指標をロマン法率に変更、過去1年間の成績表示をバロメータ表示に変更、2019年春秋の成績を反映。

同9月にレート変動履歴を実装し、レートランキングページを追加。

同10月に協会サイトへのリンクを配置、個人 AWARDS にドラフト指名順位を追加。

同11月にシーズン一覧ページ、個人ページ初記録表示機能、ドメイン名によるプログラム切り替えを実装。

同12月にアクティブ選手の表示、個人成績期毎内訳表示、選手タグ付け機能、レート表示フリップを実装。

令和5年1月に選手ページのカードデザインとタイトルバッジデザインを変更、テロップメーカーのスコアブック連携機能、出場チームでの成績表示、キャップ投げオンライン検定を実装。

同2月に月間ベストプレイヤー機能、学年色、得点圏打率の表示、マストドン react widget を実装、大会予選ブロック表示を改修、捕手全成績（スコアブック）を連携、選手成績表示のデザインを変更。

同3月にチーム一覧のデザイン変更。

(7) マーケティング委員会

令和4年度に限らず、長期的な目線で企業の協賛や公式用品の開発に向けて活動を行った。

(8) 総務委員会（会計委員会）

第2回通常理事会にて会計委員会を統合し、総務委員会となった。

協会運営にまつわる事務などを担当しており、大別すると会計に加え法務、人事の活動を行った。ほかの委員会の活動を裏方からサポートするため協会の事業の多くに関わっており、全体的な活動の円滑化や持続性の確保に尽力した。

メール対応の一環として協会所属団体からの相談や他団体・自治体との調整も行った。

(9) 新人委員会

キャップ野球のステークホルダーである選手の増加を目的とし、新規層への直接的なアプローチを試みながら競技の確立に寄与するために増設した。

初年度であるため、主な活動はこれからとなる。